

日研生 日本語科目シラバス（秋学期）

授業名	学期	授業内容	教材	成績評価方法
総合日本語	秋	中上級学習者を対象に、日本語を使って社会科学分野の知識を身につけるとともに、総合的な日本語力を身につける。学期中に3回の筆記試験を行う。課ごとに予習クイズ、宿題を課す。スピーチやポスター発表などの発信型の活動も行う。	『日本をたどりなおす29の方法』東京外国語大学国際日本研究センター	平常点（活発な参加・取り組み）10%、筆記試験45%、発表15%、予習クイズ 15%、その他課題（宿題等）15%
日本語読解演習	秋	実際の大学生活や将来の生活で役に立つ中上級レベルの日本語力を身につけることを目標とした読解クラス。将来日本での就職、あるいは日本語を使用する業務に携わることを想定し、ビジネスシーンでのマナーも身につける。また、ビジネスメールやビジネス文書のフォーマットにも慣れるようにする。	配付教材	平常点（授業への取り組み）20%、筆記試験（3回）80%
日本語文章表現	秋	基本的な作文の書き方、文章表現を学び、理論的な文章が書けるようになることを目標とする。提出作文を添削することによって、その問題点を把握し、文法的に正しいかだけでなく、書く文章の目的にあった表現方法・構成も学んでいく。学期後半で各自の定めたテーマでレポートを作成する。レポートは完成させることだけでなく、作成過程も重視する。	配付教材	平常点（グループ活動への活発な参加、課題への集中した取り組み等）：20% 作文課題（宿題を含む）：30%、最終レポート：50%

日本語聴解演習	秋	大学の講義や研究発表などを聞く力をつけるために、様々なテーマの論理的・抽象的な話を聞いて、概要や論理構成を捉える練習をする。また、聞き取った内容の要点をまとめる練習も行う。	配付教材	平常点（参加度、授業内の発言、取り組みの姿勢等）： 30%、課題（要約等）： 50%、まとめテスト：20%
日本語口頭表現	秋	日常生活でよく使われる中上級の表現を使い、待遇関係に注意しながら、まとまった量の会話を滑らかにできることを目指す。会話でよく使われる表現や技術についての知識を身につけ、運用できるように学習する。発表に関しては3回の発表を通し、さまざまなタイプの発表をオーディエンス目線でわかりやすくできることを目指す。	『シャドーイング日本語を話そう！中～上級編』、配付教材	平常点（参加態度）20%、 クラス内の課題20%、発表 30%、小テスト10%、シャ ドーイングテスト20%

日研生 日本語科目シラバス（春学期）

授業名	学期	授業内容	教材	成績評価方法
日本語読解演習	春	日本人が普通目にする文章および大学レベルで扱う文章に触れることにより、テキスト・タイプによって読み方を変えて読む技術を身につける授業である。日本語・日本文化研修留学生（日研生）が修了論文を執筆するうえで役に立つよう、論文の読解や構成の分析なども行なう。	配付教材	平常点（ディスカッション、 レポート、宿題等）30%、試 験（2回）70%
日本語文章表現	春	日本語・日本文化研修留学生（日研生）が修了論文を執筆するうえでの必要事項を学ぶ。論文の構成、資料の使い方、発表練習（中間及び最終）、要旨の作成等が含まれる。	配付教材	平常点（活発な参加・取り組 み組み等）25%、課題（宿 題・発表等）75%

日本語口頭表現	春	言いたいことを簡潔に表現する練習と、ディベートなどを通じ、相手の意見を受け止めた上で自分の主張を繰り広げる練習を行なう。	配付教材	授業への参加態度、授業内の課題
---------	---	--	------	-----------------

日研生 日本文化科目シラバス（秋学期・春学期）

授業名	学期	授業内容	教材	成績評価方法
現代日本の社会	秋	現代日本の社会は、グローバル化した社会の進展とともに多様で複雑な問題を抱えており、早急かつ適切な解決を迫られている。この授業では、そのような問題群（現代の社会現象）のいくつかを取り扱う。たんなる時論の解説というのではなく、現象の根底にあるものに対して歴史学的な考察を加えて、日本社会への認識を深めていきたい。	配付教材	平常点50%、レポート50%
日本事情CⅡ	秋	この授業は、日本人学生との合同クラスで行う。日本の生活文化、とくに通過儀礼（通過儀礼を、誕生儀礼、年齢集団、婚姻儀礼、葬送儀礼に細分する）について学ぶ。まず、教材となる資料をもとに、教員による講義がある。その後、細分したテーマごとにグループ学習・報告を行う。日本人学生とともに、日本の文化と各国の文化を比較考察することによって、現代日本についての認識を深める。	配付教材	テーマ（誕生儀礼・年齢集団・婚姻儀礼・葬送儀礼）ごとの提出物4点

日本文学概論	秋	文学には、その国の歴史や思想が自ずから現れる。この授業では、まず文学を支える文字についての考察をし、その後、時代に即して貴族の文学・武士の文学・町人の文学を概観し、それぞれの特徴や代表的な作品について学ぶ。学期後半には現代小説を用いた文学演習を行い、映像作品との比較鑑賞・分析を試みる。	配付教材	平常点30%、課題（宿題・発表・レポート等）70%
地域実見 －岐阜を知る－	秋	岐阜地域は日本列島の中央に位置して穏やかな気候に恵まれ、特色ある文化をはぐくんで、それを現在に受け継いでいる（日本遺産第1号にも認定される）。この授業では、国史跡の岐阜城跡、国重要有形・無形民俗文化財の鶺鴒、岐阜市の古社・伊奈波神社等々をテーマに取り上げ、テーマに関する講義と実見とによって、体験的に地域認識を深める。	配付教材	小レポート100%
日本の 文化芸術	春	文化芸術とは、メディア芸術を加えた文学・音楽・美術・写真・演劇・舞踊等の芸術、伝統芸能、生活文化と国民娯楽をさす。この授業では、外国人留学生に対し、上記の範囲から、①落語と漫才、②茶道と食文化、③浮世絵、④映画とアニメーション、⑤能楽と歌舞伎、そして⑥文化財の保存と活用を選び、日本の文化芸術について概説する。	配付教材	平常点（40%）、レポート（60%）